

日本技術サービスが新パートナーに

オリジナル設計

下水道展ブースで発表、トークセッションも



3社の歩みを紹介するパネルの前に立つ（左から）内田社長、宮崎社長、菅社長、高坂さん



下水道展にあわせて開かれたグループ企業3社合同のウェルカムパーティーで

オリジナル設計は7月29日、日本技術サービス（本社・神戸市、内田浩幸・代表取締役）をOECグループの新たなパートナー企業として迎えたことを発表した。下水道展25大阪のブースでは、

ミス日本2025「水の天使」の高坂実優さんがコーディネーターを務め、菅伸彦社長、内田代表取締役、OECグループに今年1月から参画しているクラックスシステムの宮崎晋輔・代表取締

役によるトークセッションと、記念のテープカットセレモニーが行われた。また、ブース内には、3社のこれまでの歩みを10年単位の年表で表したパネルも掲示された。

上水道の設計・監理を主な事業とし、これまで西日本を中心に多数の実績を有している。下水道の設計・監理に強みを持ち、施設情報管理やアセットマネジメントシステム構築など、ソリューション・システムを駆使したコンサルティングサービスに力を入れているオリジナル設計としては、上下水道一体となつた事業ニーズの変革に対応し、上水道事業の強化や、ウォーターPPPなど官民連携の推進を通じて、OECグループ全体がさらなる成長を遂げるための絶好の機会と判断した。

トークセッションで菅

社長は、「日本技術サービスとは、昨日株式譲渡契約を締結し、本日正午に東京証券取引所を通じて内容を開示したところ。上下水道の領域をより強固なものとして、調査・設計、継続的な更新が不可欠な社会インフラに関わるさまざまなソフトウェアの開発と、システムエンジニアリングサービスの提供体制に弾みがつくと考えている。私どもは、社会インフラの担い手として、水から始まり都市全体を見渡す視点を持ったグループへと進化し、「ビヨンドウォーター、ビヨンドトゥモロー」の思いのもと、地域の皆様と共に、

次の時代のインフラづくりに挑戦していく」と抱負を語った。内田代表取締役は、OECグループへの参画を決断した理由について、「水道事業の広域化やウォーターPPPといったテーマに直面する中で、単独では越えにくい壁を常にかけていた。オリジナル設計の社内システムや営業ネットワーク、また、若さに溢れた突破力を持つクラックスシステムと手を取り合えば、新たな事業展開も含め、より効率的にソリューションを提供できると感じ、参画を決めた」と話した。宮崎代表取締役は、「I

CTソリューションを提供している私たちは、公共システム分野を軸に、上下水道や地下鉄、電力、料金徴収システム分野にも携わってきた。最近では、システム開発だけでなく、SES（システムエンジニアリングサービス）による現場の常駐支援や運用フェーズの支援も行っている。今回の3社体制では「ウィズ・インフラ」を起点としながらも、インフラ全体に広がる連携を築いていくことができると実感している」と手応え。

今後の上下水道に対する一体的な支援について、菅社長は「全国の自治体からは、上下水道セツトで運用を最適化したいという声が多数届いている。私たちは上流の設計から下流の運営支援、DXの実装までをトータルで担うことも視野に入れ、特に、これから本格化していくウォーターPPPや官民連携において、上下水道どちらの相談についても、お任せいただける体制を強化していきたいと考えている」と展望を述べた。

内田代表取締役は、「ウォーターPPPは単に委託ということだけではなく、共に運営していくという考え方が求められる。私たちは長年培ってきた調査・計画・設計の経験を生かして、個別の案件で協業するメーカーや維持管理セクターの方々と意思疎通を図ることで、課題の先回りの提案を含めたコンサルティングに取り組んでいく」とし、宮崎代表取締役も、「当社には、上下水道の他にも、さまざまなインフラのシステム開発に携わるエンジニアが多数所属しているので、その時々状況によってエンジニアを投入し、お客様の利便性向上につながる付加価値を提供したいと考えている」と意気込みを述べた。

下水道展終了後、グループ企業には新たに複数の商談が舞い込んでいくという。

日本技術Sがグループイン

OEC 水道分野の提案力強化

オリジナル設計（OEC、菅伸彦社長）は7月29日、日本技術サービス（内田浩幸代表取締役）を子会社化した。同日、下水道展25大阪の同社ブース内で経緯を発表した。

発表で菅社長は、これまでOECが下水道を中心に事業を進めてきたことを紹介。その上で、水道分野に強みを持つ日本技術サービスと、1月17日にグループインしたD

輔代表取締役）の強みを合わせることに、さらなる事業の拡大に意欲を示した。

た菅社長は「国も上下水道行政を一元化した、われわれもDと水道の豊富な知見を持つ2社とともに、新たな時代を体現するよう企業グループを目指したい」と力強く述べた。



シナジー発揮へ（合同パーティーでの記念撮影）